

平成27年度 第2回東員町まち・ひと・しごと創生懇談会 主な意見

日時：平成27年8月21日（金）午前10時～12時

場所：西庁舎2階 201～202会議室

1. 人口ビジョンについて

○数字の議論ではなく、その数字を現実化するためにはどうすればよいかを検討することが大切。先進的にやっていることを示していただくことも必要。

2. 総合戦略について

2-1 結婚、出産、子育てについて

(1) 結婚を促す

○近郊の都市にも募集をかけて、若い人の交流を促すことが必要。（3年前の出会いイベントで6組のカップルができて、1組は結婚、出産している。）

○今は結婚しない人が増えているので、結婚することをビジョンの大前提に上げることが必要。

(2) 出産の決定権をもっている女性が子どもを産みたいと思えるような施策が大切

○子どもを産む、産まないは、女性が決定権をもっているというところが、見えてこない。ほんとうに女性が産みたいと思うこと、夫婦の関係をつくることが必要。2人目を生むか産まないかについては、男性が家事に2時間関わると22.9%、4時間関わると7割以上産む率が高くなる。

(3) 子育て支援の仕組み（夏休みなどの学童保育、子育て支援ママ）

○夏休みなどにも子どもを預けられる仕組みがあれば、子どもを増やすことができるのではないかな。

○夏休みなどの学童保育がないので、パートさんと辞めざるを得ないこともある。民間でもよいので、保育を安く提供してもらえば、親の雇用につながる。

○子育て支援ママが身近にいると良い。同世代の人と相談できるとよい。

(4) 地域で子育てする（おじいちゃんによる子育て）

○地域で子どもをみていくことができれば、東員町はよいところだ、となるのではないかな。地域は、キーワードになる。

○おじいちゃんに子育てを担っていただく。おじいちゃんは、昔に子育てしていいので、やりたがる。おじいちゃんの活躍の場になる。

(5) 男性の子育て参画

○パパ友ができれば男性が素直に育児に参加できる。女性だけの問題ではなく、バックを広げる取組みも必要。（父子に限定した親子料理教室とか）

○会社に託児所をつくるとか、男性が育児休業とれるような環境が必要。

2-2 雇用について

(1) 女性の働き安い職種の充実（サービス産業、6次産業化）

- 女性が働きやすいサービス産業は充実していない。そのような職種を育成することも必要。
- インターチェンジができるので、6次産業化ができる観光農園のようなものをつくって、東員町のイオンで販売してもらえれば、女性、高齢者、障がい者が働けるのではないか。

(2) 農業を活かす

- 農業をやりたい人が増えているので、農業バンクのようなものがあって、料金設定できる仕組みをつくっておくと良い。

(3) 高齢者の雇用

- 高齢者でも、年金プラスアルファの所得が得られる場所であることをPRできるとよい。6次産業化、食事の宅配をお年寄りのグループでつくるなど。

2-3 交流・にぎわいについて

(1) 宿泊施設の設置

- 東員町は、宿泊施設がない。宿泊施設をつくれれば、冬休み・夏休みとかには、体育施設を使っていたのではないか。
- 食事はお年寄りにしてもらおうとか、東員町でできたものを使うとかの方法がある。
- 農家民泊とか、宿泊系ができると良い。

(2) 東員町の良い部分を磨く（伝統芸能を学べる場と宿泊施設のセット）

- ハード面は、開発とかで、お金がかかる。ソフト面の充実が必要。交流・賑わいを増やすのが大切。東員町にあるものを磨いていくと、人を寄せられる魅力になっていくのではないか。
- 伝統芸能を学びたいという人が結構いる。ワークショップを組み合わせると、人と人が交流できる学べる場と宿泊できる場があると、地域の個性をだせる。

(3) 道の駅の整備

- 中部公園は、食べる場所がない。付近に道の駅をつくれれば、お母さんは買い物ができる。東員町で作ったものを売るとかができないか。

2-4 まちづくりについて

(1) 大学生のUターン促進

- 高校卒の就職者は、地元への定着率が高い。(昨年、就職した生徒さんは341名、そのうち桑名の管内企業に就職したのは218名。県内の管外企業に就職したのは92名。その中心は四日市。県外は31名。)
- 大学生は、愛知県の大学に行く生徒が多い。その人を、どうして戻ってきてもらうか。現状としては、働く場所はあるので、対策をたてる必要がある。

(2) 高等教育機関の設置促進

- 職業人の育成を目的とした高等教育機関を設置できないか。

(3) 住み安さのアピール、目玉となる施策の提供

- 家族ぐるみで住み安いことをアピールできれば良い。
- 笹尾・城山では空き家がある。空き家を町で安く提供するとか、アパートを建てて、できるだけ安く提供するとか、結婚して10年間は半額にするとか、目玉商品をいれておくことが

必要。

(4) ミニ団地開発を増やす

○若い世代が住めば、人が人を呼ぶ。ミニ団地開発地区は限られているので、ミニ団地を増やすことも考えていってはどうか。

(5) 目玉施策をつくりシティプロモーションする

○この戦略は、どこの自治体でも考えることがよく似ているのではないか。このため、東員町では、早めに目玉の施策を確定して、周辺の自治体よりも速く打ち出すことが必要。

○シティプロモーションが一つの項目になる。子育て環境がいいとか、貸せる農地があって、子供と土まみれになって育てることができるとかいうことを、早く整備することが大切。

○東員町のことだけを考えるのではなく、広い目でみていくことが必要。

○東員町のいいところがあれば、それを伸ばすことが必要。自治体の半数は中学生まで医療費を補助しているが、東員町で重視していることなど、いいところを伸ばして発信することが必要。

(6) 高齢者対策

○団塊の世代が後期高齢者になるのは、あと7年しかない。そのような方の生活課題がある。笹尾・城山地区で高齢者が爆発するので、その人たちの生活をどうクリアーするかが第一課題。近隣で支える仕組みが必要。

○高齢者を見る仕組みとして、借り上げアパートで子ども世代が近居する方法がある。

(7) パラサイト対策が必要

○パラサイト（適齢期を過ぎても結婚をせずに親元で暮らす人のこと）になっている人が30年後には60歳になる。地域社会として支えられるのか。大きな課題になるはず。